

第4回岩手県広域サイクリングルート検討会議 議事概要

1 日時

令和5年12月21日（木） 14時～16時

2 場所

岩手県公会堂 2階 26号室

3 出席者

別添出席者名簿のとおり

4 議事

- (1) パブリック・コメントを踏まえた広域サイクリングルート修正案について
- (2) 岩手県広域サイクリングルート整備マニュアル案について
- (3) 岩手県広域サイクリングルート名称決定方法案について
- (4) 今後のスケジュールについて

5 配布資料

- ・ 次第
 - ・ 出席者名簿
 - ・ 配席図
 - ・ 岩手県広域サイクリングルート検討会議設置要綱
- 【資料1】 パブリック・コメントを踏まえた広域サイクリングルート修正案について
- 【資料2】 岩手県広域サイクリングルート整備マニュアル案について
- 【資料3】 岩手県広域サイクリングルート名称決定方法案について
- 【資料4】 今後のスケジュールについて
- 【補足資料】 注意喚起（レイアウト案）

6 会議結果

○議事

(1) パブリック・コメントを踏まえた広域サイクリングルート修正案について

- ・ 事務局から資料1について説明。

<意見等> ※ 「⇒」：事務局回答

(岩手県サイクリング協会 盛合事務局長)

- ・ 東ルート（案）の一部区間を試走したが、大船渡市盛町から普代村までの区間は、ほとんどがトンネルとなっている。特に、鳥谷坂トンネルは狭い上に暗い。他のトンネル区間は交通量が少ないため、問題ないと感じている。

(岩手県立大学総合政策学部 宇佐美准教授)

- ・ 道路だけでなく、ルートに並行する三陸鉄道も使ってもらい、三陸沿岸の景色を楽しんでもらうのがよいと思う。
⇒今後の検討の参考としたい。

(2) 岩手県広域サイクリングルート整備マニュアル案について

- ・ 事務局から資料2および補足資料について説明。

<意見等> ※ 「⇒」：事務局回答

(岩手医科大学教養教育センター ホップス教授)

- ・ サイクリストとしては、上り勾配が始まる場所とその区間長を知りたいので、その内容を注意喚起看板等に盛り込めるとよい。上り勾配の区間長が短い場合は、注意喚起の必要がないと思う。注意喚起看板等の色は、サイクリストがドライバーに自分の存在を知らせるため、黄色のサイクルジャージを着ることが多いことから、黄色が良いと思った。
⇒ 看板に記載する距離の内容やデザインについては、他地域の事例も参考に今後検討したい。

(岩手県立大学総合政策学部 宇佐美准教授)

- ・ 「勾配注意」については、「上り勾配」または「下り勾配」がわかるよう日本語でも表記すると良い。また、注意喚起看板等のデザインは、情報量のバランスから、案④が良いと思う。

(岩手医科大学教養教育センター ホップス教授)

- ・ 「勾配注意」の英語表記は、「STEEP UP/DOWN HILL」と表記する場合もある。
⇒ 他地域の事例も参考に検討したい。

(岩手県サイクリング協会 盛合事務局長)

- ・ ルートの維持管理の話になるが、沿岸部は路肩に小石や砂利が多いので、頻繁に道路清掃をしていただきたい。また、ルート案内看板の設置基準は、注意喚起看板等と同様の基準とするのか。
⇒ ルート案内看板はマニュアルに則った区間延長単位で、注意喚起看板は対象箇所ごとに設置することになる。

- ・ 現時点の案をみると、ルート案内の看板の高さは、地上から1.2m程度であり、盤面の角も丸く削られていない。サイクリストが転倒時に接触する可能性があるため、安全面も考慮して、整備基準を検討してほしい。

⇒ 他地域の事例も参考に検討したい。

(岩手県立大学総合政策学部 宇佐美准教授)

- ・ ルート案内誘導線を整備する際、連続設置もしくは一定間隔で間引きする場合のどちらが良いのか。

⇒ 検討の参考とした震災復興・伝承みやぎルート（宮城県）は、整備済み区間は連続設置としている。岩手県でも最終的には全線の設置を目指す、単路部の直線区間等、サイクリストが進行方向を誤りにくい区間は、間引き等による暫定整備を想定している。

- ・ 整備ルールをマニュアルに記載するとよい。

(岩手県「道の駅」連絡会協働会議 清水川道の駅「たのはた」駅長兼事務局長)

- ・ 今夏、道の駅を滞在拠点とし、長時間駐車場を利用していたサイクリストがいた。長時間滞在されると駐車場の規模によっては他の利用者に迷惑がかかる。休憩施設を利用する上での利用ルールは考えているか。

⇒ 現時点では考えていないが、施設側のルールが分かるようにマップやHP等で示す検討があると思う。

- ・ 休憩所は、何キロ間隔で示すという想定はあるか。

⇒ 岩手県広域サイクリングルートの設定方針に基づき、20キロ間隔での設置を考えている。いわてサイクルステーションの登録は引き続き進めているところである。

(国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所 香木副所長)

- ・ ルート案内誘導線を溶融式で整備すると、1ミリ程度の厚さが生まれる。また、ペイント材料によっては連続して整備することで水が溜まり、スリップの原因になるため、間引きでの設置も検討する必要がある。また、ルート案内の看板の高さは、除雪による支柱への影響も考慮して検討したほうがよい。なお、注意喚起看板の幅が60cmとされているが、路上施設帯の占有幅が50cmであるため、見直してもよいのではないかと。

⇒ ルート案内誘導線の方法や看板の大きさは、他地域の事例も参考に検討したい。

(岩手医科大学教養教育センター ホップス教授)

- ・ 路面表示の設置により、路面が滑りやすくなるため、極力設置しない方がよいというサイクリスト側の意見もある。

(三陸鉄道株式会社 橋上旅客営業部長)

- ・ ゲートウェイに求められる機能として「着替えスペースやシャワー施設」があるが、実際に駅内に整備することは困難である。ゲートウェイの周辺施設も含めて一体的に必要な機能を検討するとあるが、具体的に教えていただきたい。

⇒ サイクリストにとって必要な施設は、実態を踏まえ、周辺施設も含めて検討したい。各ゲートウェイにおいては、今後施設管理者と具体的に調整していきたい。

(国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所 香木副所長)

- ・ 案内標識は青地に白であり、注意喚起は黄色地に黒字が基本である。

(岩手県立大学総合政策学部 宇佐美准教授)

- ・ 注意喚起看板のデザイン案については、多数決により、「黄色地に黒字」とする。
- ・ 表記については、多数決により、案④とする。

(3) 岩手県広域サイクリングルート名称決定方法案について

- ・ 事務局から資料3について説明。

<意見等> ※ 「⇒」：事務局回答

(国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所 香木副所長)

- ・ 三陸国道事務所にて挙げられた、サイクリングルートの名称フォーマット案を紹介した。県内を代表する地名に方向を付けたルート案など、様々挙げられた。

(岩手医科大学教養教育センター ホップス教授)

- ・ 英訳して使用することも想定しておくこと。外国人がフランス語と英語が合わさった看板を見ると解釈が難しい。

(岩手県立大学総合政策学部 宇佐美准教授)

- ・ 公募用チラシの裏面に、郵送・FAX用の応募用紙を読み込むQRコードが掲載されているが、郵送やFAXで応募する方はQRコードを使わないことが予想されるため、不要だと思う。また、景品をサイクリスト向けのグッズとされているが、これはサイクリストが既に持っている場合が多いと考えられるため、岩手県らしいグッズが良いのではないか。

⇒ 今後の検討の参考としたい。

(岩手県商工会連合会 内金崎内金崎自転車商会代表)

- ・ 公募結果の表彰は、岩手県広域サイクリングルートの広報にも繋がるため、豪華景品等を用意し、大々的に実施してはどうか。

⇒ 景品については考えたい。なお、表彰式は春先を想定しており、テスト走行等のイベントと兼ねて実施したい。

(岩手県空港ターミナル株式会社 菊池総務部参事兼業務課長)

- ・ 応募対象は必要だろうか。要は、誰でも応募して良いという事ですよね。

⇒ そのとおり。ただし、応募対象は個人とする。

(岩手県立大学総合政策学部 宇佐美准教授)

- ・ ルート名称はSNSでも応募可能であるため、構成員のアカウントも活用しながら拡散していただきたい。

(4) 今後のスケジュールについて

- ・ 事務局から資料4について説明。

<意見等> ※ 「⇒」：事務局回答

- ・ 特に無し